

科目名 クラス 講義区分
日本語教授法Ⅱ [4] <通期>
<p>【教員氏名】 友沢 昭江</p> <p>【単位数】 4 単位</p> <p>【演習概要】 日本語学習者の多様化に対応するためにさまざまな教授法や教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景などを考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教授法や教材を選択する眼をもたなければなりません。本講では教授法Ⅲで行う模擬授業などに必要な教授法の基本と教材の分析研究を中心に学びます。</p> <p>【学習目標】 この授業の目標は日本語を教えるのに必要な基礎的な知識（日本語に関すること、教授法に関すること）を獲得すること、一般によく使用されている教科書をグループに分かれて詳細に分析し発表することです。</p> <p>【講義計画】 第1回：日本語を教えるということ（1） 第2回：日本語を教えるということ（2） 第3回：いろいろな外国語教授法（1） 第4回：いろいろな外国語教授法（2） 第5回：初級の教え方（発音／会話）（1） 第6回：初級の教え方（発音／会話）（2） 第7回：初級の教え方（文字／読解）（1） 第8回：初級の教え方（文字／読解）（2） 第9回：初級の教え方—ビデオ視聴（1） 第10回：初級の教え方—ビデオ視聴（2） 第11回：初級の教え方—初級教科書の分析（1） 第12回：初級の教え方—初級教科書の分析（2） 第13回：初級の教え方 第14回：中間試験 第15回：中間試験の講評 第16回：中上級の教え方—初級との違いについて 第17回：中級教科書の分析（1） 第18回：中級教科書の分析（2） 第19回：上級教科書の分析 第20回：目的・技能別教科書の分析 第21回：インターネット利用の日本語学習 第22回：日本国内と海外で用いられる教授法と教科書 第23回：予備日 第24回：教科書分析のグループ発表（1） 第25回：教科書分析のグループ発表（2） 第26回：教科書分析のグループ発表（3） 第27回：教科書分析のグループ発表（4） 第28回：一年間の講義のまとめ 第29回：期末試験 第30回：期末試験の講評（テストを評価につなげるとはどのようなことか。）</p> <p>【成績評価の方法】 試験評価：50% レポート：30% 出席：20% 春学期末と秋学期末に試験を行います（合計2回、50%）。それ以外にも授業での発言、課題、グループ発表（30%）、および出席状況（20%）を総合的に考慮して評価を行います。資格関連の科目なので、出席は重要視されますが、それだけではなくすべての課題をしあげることがより重要です。</p> <p>【テキスト】 高見澤孟『新・はじめての日本語教育2—日本語教授法入門』アスク出版、2004年</p> <p>【参考文献】 ・『新・はじめての日本語教育1—日本語教育の基礎知識』（高見澤孟他、アスク） ・『ここから始まる日本語教育』（姫野昌子他、ひつじ書房） ・『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社） ・『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク） ・『中上級を教える人のための文法ワークブック』（庵功雄他、スリーエーネットワーク）</p>

・『ベーシック日本語教育』（佐々木泰子編、ひつじ書房）

【準備学習の指示】

講義期間中に教科書の内容をすべて扱うことができないので、早めに購入して読み進めてほしい。できれば講義が始まるまでに最後まで目を通して、扱われている項目についてある程度の知識をもっておいください。